



# 総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。  
スポーツ振興くじについてはこちらから

[日本スポーツ振興センターHP] <http://www.jpnsport.go.jp/>

スポーツくじ



スポーツ振興くじ助成事業



## 特集

子ども・高校部活生・大人等を対象として、  
武道系種目(空手)に取り組むクラブ



一般社団法人東千葉スポーツクラブ(千葉県)

## 特別企画

 スポーツ少年団と連携しているクラブ

NPO法人MIYAZAKIうづらaiクラブ(宮崎県)

## 特別企画

 自転車種目に取り組むクラブ

一般社団法人リトルパイン  
総合型地域スポーツクラブ(奈良県)



## 連載

 学校運動部活動と連携するクラブ

NPO法人たかはら那須スポーツクラブ(栃木県)



助成金情報 ▶▶▶ 詳細



お知らせ ▶▶▶ 詳細



バックナンバー ▶▶▶ 詳細



公益財団法人

日本スポーツ協会

# 特集

## 子ども・高校部活生・大人等を対象として、 武道系種目(空手)に取り組むクラブ



### 一般社団法人東千葉スポーツクラブ ＜千葉県東金市＞



平成24年度から全国の中学校で武道の授業が必修となりました。武道は我が国固有の文化であり、相手を尊重して練習や試合ができる種目です。中学校の必修化に伴い、総合型クラブにおいても、武道系種目の活動をしているクラブも増えたのではないのでしょうか。

そこで今回は、武道系種目を取り入れて活動するクラブを紹介します。

### 1 クラブ概要

#### 空手、太極拳など9教室開催

設立:平成25年9月

種目会員数:約200名(令和5年1月1日現在) 正会員数:4名

開催教室:空手、野球、フットサル、陸上、卓球、ヨガ、ノルディックウォーキング、太極拳

上記8種目以外に私立幼稚園での課外教室

指導者数:約24名

#### 3か所で空手教室を実施

一般社団法人東千葉スポーツクラブは、スポーツ教室事業、委託事業などを行っております。スポーツ教室では空手教室を東金市1か所および近隣市にて2か所開催、また東金市民総合体育館(東金アリーナ)において指定管理団体との共催事業としてその他のプログラムを実施しております。

事務局担当者としては専任で2名おり、1名が補助として業務を行っております。



共催事業チラシ



## 2

## 「空手の普及」を重視した教室を展開

当クラブは元々空手教室を単一種目教室としてスタートし、平成25年に総合型地域スポーツクラブとして現在の名称および法人格を取得し、多種目教室に変更いたしました。

武道系種目の指導者は、親子で単一種目教室に参加してくれていた保護者の方や小学生の時に入会した生徒が大学生や社会人になり、指導者を担っていただくこともあります。総合型クラブへの移行の際は、移行前に指導員へ趣旨をきっちり説明し了解を得たため、異論等はありませんでした。

地域には多くの空手教室があり、市民の皆様にも多様な選択枠がある中で、当教室は「空手の普及」を目的とし、空手を通じて礼儀や空手の技、文化を学んでもらうことを重視しております。具体的には挨拶の重要性と継承されている技の説明等が指導の中心となっています。

### 【空手教室の概要】

- 1 年齢層：4才～60代 ※50歳以上の教室の参加者数＝7名（女性6名、男性1名）
- 2 参加者：約80名（男女比9：1）
- 3 クラス分け：幼年クラス、小学生以上クラス、高校生クラス、50歳以上クラス
- 4 4か所の教室内訳
  - ①東金教室（事務所兼自前道場）：月～土 週1回曜日別参加（幼年～一般）
  - ②大網教室（民間施設）：週1回小学生
  - ③みどりが丘教室（自治会館：公共施設）：週1回小学生
  - ④季美の森幼稚園（私立幼稚園課外授業）
- 5 指導内容：演武形式の形（かた）の稽古を中心として基本練習を主に実施

季美の森幼稚園での課外教室ですが、私立幼稚園での事業展開として開催するに至りました。幼稚園児が対象ですので、ケガに注意するだけでなく将来的な運動障害につながらないような練習負担にとどめております。



幼児対象の空手教室

## 競技経験ない高校部活生にも空手指導

また、高校生への競技力向上支援として、公立高校の空手道部に所属する競技経験のない生徒に対して競技としての空手も指導しております。

高校での指導者不足により競技力が低く、競技会参加時に生徒が競技会へのモチベーションを保てていない傾向にあったことから空手部の生徒を受け入れました。高校との正式な連携ではなく、幣クラブ内でのクラス分けとして高校生のための稽古を行っています。

指導時の注意として「学ぶ姿勢」を大切にしております。顧問の先生をはじめ、色々な人から指導を受けた際には、人の話を聞き「学ぶ姿勢」を身に付けてほしいと指導しております。

## 50歳以上の空手教室では「負担なく」を最優先

令和3年より「50歳からの空手教室」として、50歳以上の方を対象とした教室も開催しております。こちらの教室は「ゆっくりとした動作で空手を学ぶ」をコンセプトに、負担のない、ゆっくりとした動きで参加者の関節などのけがの防止や、心拍への負担軽減により無理なく教室を継続してもらえることを目的としております。

## コロナ対策、ケガ防止に配慮して教室を開催

近年のコロナ感染症対策として、教室時間の変更(短縮)や1回の教室での人数を制限し、稽古内容も生徒・参加者同士が接触なく行える演武形式に重点を置くなどの感染予防に努めております。予防効果もあり教室でのクラスター感染はなく、現在のところ安全に教室運営が継続できております。

ケガ防止対策としては、参加者の負担が過大にならないよう、体力面や運動能力に合わせ無理のない内容としております。具体的には以下の点に留意しております。

- ① 高齢者: 心拍数が上がらない内容
- ② 子ども: 膝や腰に負担の少ない内容
- ③ 大人: 仕事に支障を来さないような負荷を主に実施



### 毎年の「空手教室年末イベント」で交流

年末には「空手教室年末イベント」を実施しています。稽古納会として運営教室合同の稽古会として開催し、内容としては年間継続表彰(5・10年)や級別の形演武、指導者の紹介などを行い、親睦と交流を図っております。



空手教室年末イベント

## 3 教室の目的を明確化し、参加者のニーズに対応

### 空手教室の生徒が、他種目の経験を経てクラブ指導者に

当教室の目的や内容を明確化することで、生徒・参加者のニーズに応えられていると思います。空手を「最優先の習い事」とは捉えずに当教室で空手を習い続けることで、その生徒が中学・高校・大学生となり他の種目を経験し、指導者となれるような状況となったことにより、武道以外にも教室を展開する当総合型クラブにとっても人材確保の面で新たな効果が生まれていると考えます。

### 高校部活動の地域支援にも貢献

また、高校生への技術指導により関東大会出場、新入部員の増加など、部活動の地域支援としても良い結果・影響が出ております。競技経験のない高校生を指導し続けることによって、生徒の技術力等が成長し大会に出場できるようになり、さらに結果も出てきたため、生徒のモチベーションアップにつながっています。

### 多世代が空手に親しめる環境を増設

今後はより多くの方々に、当スポーツクラブを知っていただき、様々な運動の機会を提供することが課題と考えております。

より多くの世代の方に空手を知ってもらえるような、新しい教室内容などの取り組みをしてまいりたいと思います。また、空手だけではなく他の武道教室なども開催し、より多くの市民の方が日本伝統の武道を知って、体験してもえたらと考えています。

## 4 地域課題改善に寄与するクラブ運営を目指す

当クラブの今後の展望としては、地域の課題(人口減少、人材の都市部への流出、コミュニティの細分化、児童の運動能力格差など)を考慮し、それらについてクラブの活動が改善策となるような運営を進めていきたいと考えております。

(一般社団法人東千葉スポーツクラブ 代表理事 山岸 恵夢)

### クラブ プロフィール

**設立年月日** 平成27年4月1日(平成25年9月12日法人登記)

**所在地** 千葉県東金市

**運営** 会員数:約200名(令和5年1月現在)、予算規模:約600万円(令和4年度)

- 特徴**
- 市内体育館指定管理団体との共催事業として教室を運営
  - 教室事業では競技団体や企業チームと協力して教室を運営
  - イベント事業としてスポーツ大会やスポーツフェスタなども企画・運営
  - 教室事業として9種目のスポーツ教室が活動中
  - 武道種目として空手を4か所にて実施(私立幼稚園での課外教室含む)

**連絡先** 〒283-0005 千葉県東金市田間3-39-8

TEL 080-3453-3398 FAX 0475-52-6020

URL <https://www.hc-sports.org/>

E-Mail [info@hc-sports.or.jp](mailto:info@hc-sports.or.jp)



## 特別企画

### スポーツ少年団と連携しているクラブ

## NPO法人MIYAZAKIうづらaiクラブ ＜宮崎県宮崎市＞

総合型クラブが地域に定着し、浸透するためには、地域との一体感の醸成が重要となります。そのために、スポーツ少年団をはじめとする地域のスポーツ団体等と相互扶助の関係を築き、地域社会からの信頼性を確保し、地域に根差す団体となる必要があります。

そこで今回は、スポーツ少年団と連携し、地域におけるスポーツ推進体制を高めているクラブを紹介します。

### 1 クラブ概要

宮崎県宮崎市佐土原町久峰中学校区に当時小学校のPTA役員をしていた保護者を中心に平成18年より設立準備委員会を立ち上げました。元教員・校長であり宮崎県水泳連盟の会長だった伊東先生を会長にお迎えし、保護者では足りない専門的な指導やアドバイスなどをいただきながら、地域に住む子どものスポーツ環境を充実させるために平成20年にMIYAZAKIうづらaiクラブを設立しました。

#### 会員数100人強 無理・無駄なく各活動を実施

佐土原町には5つの小学校区に地域づくり協議会があり、当クラブは広瀬北小学校区地域づくり協議会に所属し、子どものスポーツ活動と併せ、まちづくりの一環で多世代多種目の活動を展開。平成24年にはNPO法人となり現在に至ります。ピーク時には300人の会員がいましたが、現在は110人程度です。無理なく無駄なく地域に本当に必要とされる活動に絞り、スタッフの正常な雇用体系を維持しつつ運営できる範囲を理事で協議し、令和元年度には事業の見直しを図り、教室数4、連携教室・活動3、パーソナルトレーニング、出前講座などを実施しています。

#### ホームページが事務局窓口役

事務所は令和2年1月に閉鎖し、(株)Tameni内に設置し事務委託をして運営。クラブホームページを事務局窓口として活用し、事務業の簡素化・効率化を図っています。



## 2

## 育成母集団として少年団を支援し連携

## 多項目体験を経て少年団に登録ー「運動サークルうづらキッズ」

平成18年の設立準備委員会時より、子どもに多種多様なスポーツ体験の機会を提供し、好きなスポーツに出会い、好きなことを一生懸命できる環境へつなげるという目的を持って活動を開始しました。

まず初めに開設した教室が「運動サークルうづらキッズ」、もう一つは「久峰陸上クラブ」です。「運動サークルうづらキッズ」は週1回活動しており、月ごとに実施するスポーツが変わるため、様々なスポーツ体験ができる教室です。その各種スポーツ体験に、地域で活動するスポーツ少年団（サッカー・陸上・野球・カヌー）の生徒・児童と一緒に来てもらい指導をしてもらいます。うづらキッズは小学1年生から6年生までいますが、継続して実施したい種目に出会えた子の中には、うづらキッズを卒業して専門種目のスポーツ少年団や地域クラブに移籍する子もいます。移籍せずに両方選択する子や毎年多項目を楽しむ子もあり、週1回しか活動しないことが多様な選択の手助けとなっているようです。



【うづらキッズ】

毎月月替わりで様々な種目を行っています。  
運動が苦手でも友達と仲良く活動しています。

## 少年団登録の陸上とカヌーでは、クラブ側は育成母集団の役割

「久峰陸上クラブ」ですが、私たちの活動エリアには陸上クラブがなく、陸上へのニーズがありましたので直営で設立しました。その後「宮崎カヌージュニア」も設立し、地域にない活動はつくり、あるものは既存の地域団体と連携することにしました。

その後、陸上とカヌーはスポーツ少年団登録をしていますが、育成母集団は当クラブが担い、事務会計などをクラブが支援しています。陸上もカヌーも保護者会をつくりませんので、保護者の役員は不在で、保護者会費等も発生しません。イベント（体力測定・クリスマス会・お別れ会・自然体験キャンプ）は監督・指導者と協議し、計画しています。保護者には、大会時の運営等に可能な範囲で協力いただいております。生徒児童の家庭の中には共働きや祖父母がサポートしている場合も多く、一般的には保護者の役割である部分を育成母集団であるクラブが代行している面も支持されていると思います。

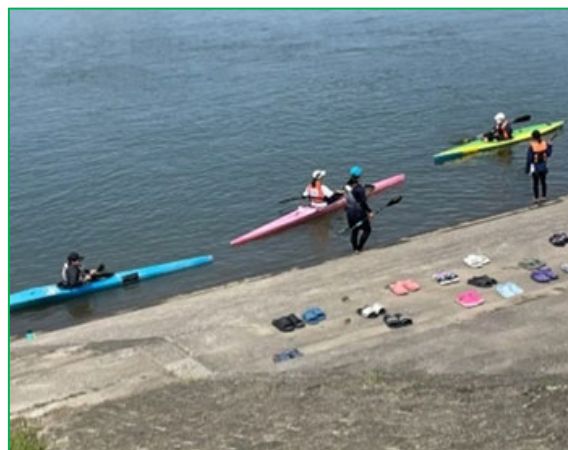


また、児童・生徒を指導するにあたり、理念や活動・指導の目的を保護者や参加児童・生徒、指導者コーチにも共通理念として理解してもらう必要がありました。こうした背景もあり、スポーツ少年団登録をすることで、スポーツ少年団の基本理念や健全育成に関する知識などを周知し、指針とすることができました。昨年12月には当クラブ教室と参加を希望する地域のスポーツ少年団と合同練習会を開き、活動種目の違う生徒・児童が同じ場所で体力測定やトレーニング、チーム対抗駅伝、レクリエーションをして楽しみました。



【久峰陸上クラブ】

小学校3年生～6年生が対象。走る楽しさを知ってもらいたいという理念を基に基礎的な動きづくりを中心に活動しています。



【宮崎ジュニアカヌークラブ】

小学2年生～高校生までが対象。カヌーの動きを通して運動の基礎土台を固め、楽しく活動する子、競技力向上を目的とする子と、さまざまなレベルの子が在籍しています。



【他競技合同練習会】

他競技のスポーツ選手と関わることで自分の種目に対する意欲を高めるきっかけになりました。

### 3

## 少年団との連携で相乗効果 事務運営の簡素化にも着手

### クラブ側と少年団の連携で、双方にメリットも

当クラブは地域にない活動を行うという方針から、他のスポーツ少年団と競合することはありませんでした。また、当クラブには他のスポーツ少年団のご協力を得て活動できている運動サークルがあります。一方で、当クラブの運動サークルでの活動を経て少年団登録する会員もいるため、他のスポーツ少年団にとっては将来の団員確保につながるメリットが生まれます。こうした相乗効果もあり、協力体制ができたと感じます。さらに、種目にこだわらず、運動したい仲間と一緒にいたいという子どもの受け皿にもなっているため、子どもの学校・家庭以外のサードプレイス的な役割もあるように感じます。子どもの成長過程において様々な運動体験は有益であるという同じ思いの指導者に恵まれている環境にも助けられています。

### 会費等をキャッシュレス化 情報共有・情報発信面もデジタル化

コロナ禍以前に会費・参加費等のキャッシュレス化に移行したことで、集金等に関わる指導者スタッフ、保護者の手間が減りました。また、今年度より子どもの活動参加時刻や終了時刻、指導内容の告知や、連絡網やクラブの案内等もデジタル化し、より丁寧な個別の対応ができるようになりました。今、当クラブは量より質を高める努力をしています。コロナ禍で活動がままならない時でもトレーニングのオンライン配信でつながれたのも強みでした。

このキャッシュレス化や情報共有ツールのデジタル化で事務局の仕事量が格段に減りました。また、スタッフ同士や指導者同士の情報共有や会員への告知や情報発信、入会や体験申込みもHP/SNSを使うことで事務所を特別に持つ必要がなくなりましたので、企業のサポートをいただきながら運営することができています。オンライン化で、普段は別の活動をしている仲間と一緒に活動する機会もつくることできるようになり、今後の進展が楽しみになっています。

### 事務局運営費の負担軽減により「クラブづくり」に専心

会員数増という目的はありますが、事務局の運営費の負担が軽くなったことにより、やみくもに会員数を増やす必要がなくなったため、同じ思い同じ理念を共に抱けるような仲間とともにクラブをつくることに重きを置くことができました。

## 4 今後も少年団との良好な関係を継続

当クラブと関わる各少年団も現在、様々な課題に直面しています。団員数減やサポート体制の維持、運営費用や指導者確保の難しさなどです。一つ一つの団体では解決できないことも、複数集まることで解決できることは多々あります。今後も地域のスポーツ少年団と良好な関係を築き、連携・協力・支援できることがあれば、率先して関わっていく予定です。

### 形にこだわらず、地域活動充実に向け支援

形も大事ですが、あえて形を明確にせずに、その時々求められることができるクラブでありたいと思います。そこにある思いは、総合型地域スポーツクラブをつくることが目的ではなく、地域活動を充実させ支援することが目的であるからです。特に私たちは子どもの健全育成に寄与することを目的とするクラブであり、そのことを達成するために今後も活動をしていきます。

そして、そこに関わる指導者やスタッフ、サポーター、保護者や関係者が楽しく意義のあるものと感じられる環境を提供していくことも、当クラブの目指すところです。

### 多世代と一緒に多様な形で活動を

少子高齢化の中、圧倒的に子ども数が減る環境が迫っています。今こそ総合型地域スポーツクラブであろうとスポーツ少年団であろうと多世代と一緒に多様な形で活動することが求められます。総合型地域スポーツクラブの大きな利点は、そのような多様なニーズに応えられることです。変化をおそれずに楽しみながら今後も総合型地域スポーツクラブの運営を行っていきます。

(NPO法人MIYAZAKIうづらaiクラブ 理事長 石川 理恵)

## クラブプロフィール

**設立年月日** 平成20年2月11日(平成24年8月22日法人登記)

**所在地** 宮崎市橘通西5丁目3-22-201

**運営** 会員数105名(令和4年12月現在)、予算規模4,684,900円(令和4年度)

**特徴** 子どものスポーツを含む地域活動の充実を目的に、子どもの活動スタイルに合わせて、個別の目標設定を立て、年齢に合わせた丁寧な指導を行っています。また、保護者の負担軽減を図るためにアプリの導入や事務局業務に力を入れていきます。活動を支える関係者も楽しめるように試行錯誤しながら変化し続けるクラブです。

**連絡先** 〒880-0001 宮崎市橘通西5丁目3-22-201  
TEL 0985-86-9321 FAX 0985-86-9322  
URL [miyazakiudura.com](http://miyazakiudura.com)  
E-Mail [h\\_uzura@yahoo.co.jp](mailto:h_uzura@yahoo.co.jp)



## 特別企画

### 自転車種目に取り組むクラブ

## 一般社団法人リトルパイン総合型地域スポーツクラブ ＜奈良県生駒市＞

国土交通省が令和3年5月に「第2次自転車活用推進計画」を策定しました。

第2次自転車活用推進計画では目標の一つとして、日常生活における自転車利用も含めた生涯スポーツの普及奨励により、心身の健全な発達や、生きがいのある豊かな生活の実現、国民の健康寿命の延伸等を目指しています。

そこで今回は、自転車種目に取り組むクラブについて紹介します。

【国土交通省HP 自転車活用推進計画】

[https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/good-cycle-japan/jitensha\\_katsuyo/](https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/good-cycle-japan/jitensha_katsuyo/)

### 1 クラブ概要

設立：平成27年3月29日

種目会員数：504名

#### 【開催教室】

大人向け... 骨盤体操・体幹トレーニング(シニア)・理学療法士の体づくり教室・ノルディック  
ウォーキング・自力整体・ストレッチ・健康マージャン

子ども向け... 陸上・テニス・野球・マット&ボール・チャレンジ・バントワリング・チアダンス・フット  
ボール・空手・ゴルフ・卓球・バドミントン・バスケットボール・サーキット・アート

指導者数：約30名



## 2

## 運動能力向上に最適な自転車

### 子どもたちの成長と、社会的課題の解決に向けて

普段自転車に乗っていると、大人が信号を守っていなかったり、歩道を非常に速いスピードで走ったり、車道を逆走したりして、ヒヤリ、ハッとする場面を多く見てきました。本来子どもに教える立場の親が、交通ルールを守らず、または知らないために、それを見て育つ子どもたちは、それが当たり前のことと認識して自転車に乗ってしまいます。このことが日本の自転車事故増加の原因の一つだと常々感じていました。

自転車は運転免許が要らず、誰でも気軽に楽しめる乗り物である反面、走行時のルールを理解していなかったり守らなかったりすると、思わぬ事故に巻き込まれる危険があります。

しかし、いざ親が教えようにも、自分たちが習っていないと、何が正しいのか分からないという問題もあります。

それならば、自転車を楽しむことと同時に、交通ルールを学び、クラブが大事にしている「楽しさ・つながり・健康な身体」も子どもたちに体験してもらえんと思ったことが取り組みの発端です。

家族の幸せのためにも、交通ルールを守る大切さを子どもたちに伝えることで、親も学び、自転車に関わる事故は減っていくし、それが今後の日本の自転車文化発展と、エコで健康的な国づくりにもつながっていくと信じています。

### 自転車はコーディネーション能力の助長に最適

その他にも、子どもの成長にとって欠かせない「コーディネーション能力」の成長にも自転車は最適とされています。

コーディネーション能力とは、簡単に言ってしまうと運動能力のことで、以下の七つがあります。

#### コーディネーション能力

- ・バランス能力
- ・識別能力
- ・変換能力
- ・連結能力
- ・反応能力
- ・リズム能力
- ・定位能力

#### 自転車で例えると…

- ふらつかずに真っすぐ進む能力
- 目で見た情報と、身体の動きをリンクさせる能力
- 速度や交通状況などの変化に合わせて対応できる能力
- ペダルとハンドル、変速など複数の動作を同時に行う能力
- バランスを崩しても、とっさに立ち直る能力
- 一定のリズムでタイミングよくペダリングする能力
- 周囲に人や物との距離感をつかむ能力

自転車では、これら動作を同時に、比較的長い時間行うので、七つの能力が成長すると言われています。

## オレンジフェスタで交通ルールを体験 長距離走イベントも実施

当クラブでは、まず年に2回オレンジフェスタという地域住民参加型イベントを開催し、その中のプログラムの一つとして交通ルールを説明するとともに、自転車でスラロームや狭い路地でも的確にハンドル操作できる練習を実施しています。また、交差点や踏切を模したものをつくり、スキルアップによる上記コーディネーション能力成長プログラムとともに、しっかりと交通ルールを守ることを体験させるようにしています。最後は交通ルールを守った上でのタイム計測をして、少しでも競技性を持たせることで、何度も挑戦したくなる工夫もしています。同フェスタの参加者は、小学生が9割程です。内訳は未就学児1割、小学校低学年4割、高学年5割程となっています。

オレンジフェスタで楽しいと思った子どもたちは、次のワンデイや泊りがけのイベントにも参加してくれるようになり、いい循環が生まれます。ワンデイでは奈良の法隆寺など、クラブから往復40kmくらいの距離を走ります。泊りがけのイベントでは、春と秋に淡路島や琵琶湖など、2泊3日で150～200 kmの距離を走れるところを選んでいきます。参加者ですが、ワンデイは小学校1年生から6年生(小学校低学年4割、高学年6割)までで、一度の実施で10～20人程の参加です。泊まりがけのイベントでは小学3年生から中学3年生(小学生9割、中学生1割)くらいまでの15人～20人程です。



オレンジフェスタで交通ルールを学び、体験する一コマ



## 3

## 自転車を通じて成長する子どもたち

## 達成感あふれる顔が最高のご褒美

暑い日、寒い日、雨の日や風の強い環境の中で、また、一人ではくじけそうな距離でも自然とみんなで声をかけ合い、子どもたちは頑張ります。ひと漕ぎで進む距離はわずかでも、それを続けると、自分でも信じられない距離を走ったことに気づき、子どもたちは自信に満ちあふれた、たくましい顔になります。

大人が手を差し伸べるのは簡単ですが、あえてこういう機会を設けることで、子どもたちは大きく成長すると考えています。

メンタルも鍛えられ、さらには、ふらつかず、みんなで速度を合わせた、安全な走りもできるようになります。自信がついた子どもたちは、「もっといろんな所に行ってみたい！」と楽しみにしてくれています。



時には雨の日も走りますが、意外にも子どもたちは楽しんでくれます

## 万が一を考え安全面に配慮して実施 継続的運営にはスタッフ増が課題

実施して、いいことは多いのですが、自転車というのは楽しい反面、メンテナンスが適正にされていないと事故に直結する乗り物です。ここはクラブとしても非常にこだわりを持っており、イベント前には有資格者がすべての自転車を点検、整備、引率して安全を担保した上で、伴走車も一台用意しています。しかし、できるスタッフが限られるなど、継続的に運営するための体制づくりをどうするのか議論を重ねています。

また、当クラブでは、参加する子どもたちに自転車の種類は制限していませんが、周りの子の影響もあって、回を重ねるごとに、参加者の自転車がグレードアップしています。そのこと自体は、自転車の楽しさに目覚めてくれて喜ばしいことですが、成長著しい子どもたちの保護者への金銭的な負担も増えることから、中古自転車の活用など何か新たな対策がないか検討を進めています。

## 4 身近な自然や文化に接する自転車ツアーを企画・運営

クラブが企画・運営する自転車ツアーは、いつもの活動場所を飛び出し開催しています。今後は、1年で7～8回くらい行っていたイベントをさらに増やし、令和5年には自転車の聖地しまなみ海道を走る予定です。令和4年度に実施した自転車ツアーは以下となります。

3月	びわいち(琵琶湖一周)	13名(小学4年～中学1年)
3月	あわいち(琵琶湖一周)	17名(小学4年～小学6年)
5月	生駒～東大寺二月堂～生駒	15名(小学4年～小学6年)
8月	生駒～法隆寺～生駒	20名(小学2年～小学6年)
8月	生駒～高山(生駒)～生駒	18名(小学2年～小学6年)
10月	びわいち(琵琶湖一周)	13名(小学4年～小学6年)
11月	生駒～明日香～生駒(親子ツアー)	4組(合計11名＝大人4名、子ども7名)

※上記のような年齢層ですが、おおむね5、6年生が多い状況です。

日本には身近なところに素晴らしい自然や文化、ホスピタリティ、食べ物があります。それらを自転車で巡り、様々なことを全身で楽しんでほしいです。自転車で楽しんだことや苦勞した末に達成した経験は、きっと大人になってから、様々なことに挑戦する原動力になってくれるはずです。



親子で明日香村まで。奈良ならではの地域に自転車でいきます。歴史や特徴、食にも触れます



泊まりがけイベントでも、夜はスライドを使い、交通ルールを繰り返し伝えます





## 対象年齢を広げ、新たなプログラム実施へ

また、対象の幅を広げるべく、未就学児や低学年の補助輪外し講習を実施するほか、親子、大人の女性向けのイベント開催を見据えるなど、新たなプログラムを考えています。

## 5 笑顔に満ちた場の創設に今後も努力

当クラブでは、自転車以外でも、サッカーやテニス、バドミントン、マラソンの大会運営、冬はスキーツアーなど、毎年新しい企画を考案するだけでなく、既存の企画もブラッシュアップさせていきます。

スポーツを通して、家族や友人を含めた、幅広い世代が健康で、笑顔にあふれた楽しい毎日を通ぐす基盤づくりの場となれるように今後も活動してまいります。

(一般社団法人リトルパイン総合型地域スポーツクラブ 自転車コーチ 石飛 健)

### クラブプロフィール

**設立年月日** 平成27年3月29日(平成28年8月9日法人登記)

**所在地** 奈良県生駒市緑ヶ丘1454-34

**運営特徴** 会員数504名(令和4年12月現在)、予算規模2,500万円(令和4年度)

「遊びがスポーツだった」をテーマに、誰もがつながりや健康を楽しみながら自身のために行えるように、参加しやすい環境を整え、0歳から90歳までの幅広い年齢層の参加者がいます。近年は健康マージャンなど文化事業にも取り組み、来てくれた参加者に10分体操をしてもらってからスタートするなど、日々の健康を基底に、活動を行っております。子ども向けの教室は、テニス・ゴルフ・サッカー・陸上・卓球・ダンス・バドミントン・空手などを開催しています。一つの種目だけでなく、二つ三つを楽しむ子も増えてきました。冬のウインタースポーツや自転車イベント、富士山登山、家庭ではできないことを長期休み等で体験しております。

**連絡先** 〒630-0262 奈良県生駒市緑ヶ丘1454-34

TEL/ FAX 0743-87-9719

URL <http://littlepine.nara.jp/>

E-Mail [info@littlepine.nara.jp](mailto:info@littlepine.nara.jp)



1月27日修正

## 連載

### 学校運動部活動と連携するクラブ

## NPO法人たかはら那須スポーツクラブ

### <栃木県矢板市>

学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

スポーツ庁および文化庁が策定した「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン（令和4年12月）」において総合型クラブと学校運動部活動との連携が示されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。

### 1 クラブ概要

矢板サッカークラブが中心となって、平成17・18年の2年間「文部科学省委託事業・総合型地域スポーツクラブ育成推進事業」-育成指定クラブ委託事業-により、総合型地域スポーツクラブ設立の準備を進めてきました。

#### 助成金を活用し運営施設を整備→自己所有施設（サッカー関連）

平成19年3月に、サッカー中心の総合型地域スポーツクラブ「たかはら那須スポーツクラブ」を設立し、同年11月に円滑かつ継続的に事業を展開するため、NPO法人格を取得しました。

平成24年に、スポーツ振興くじの助成金をいただき、矢板市内にヴェルフェフィールド（人工芝フットサル場2面とクラブハウス）をオープンしました。

令和元年には、日本サッカー協会・栃木県サッカー協会・スポーツ振興くじの助成金をいただき、とちぎフットボールセンター（人工芝サッカーフルピッチコート2面と鉄骨造り2階建てクラブハウス）を整備し、自己所有施設のある総合型地域スポーツクラブとして活動しています。

クラブ名称の「たかはら那須」は、栃木県北の高原山と那須岳を象徴としてクラブ運営を進めるため、両方を合わせて命名されました。クラブ内のサッカー部門は、「ヴェルフェ矢板」の名称で活動しており、各種大会で好成績を残しています。ヴェルフェは、フランス語の〈Vert:緑の〉〈Fee:妖精〉の意味の造語です。





リアンビレッジ矢板(とちぎフットボールセンター)  
人工芝サッカーコート



リアンビレッジ矢板(とちぎフットボールセンター)  
クラブハウス

### 会員の半数はサッカー、他に16種目を実施

現在の会員数は580名。サッカー部門が290名、その他(16種目)290名です。その他の種目は、エアロビック、弓道、健康体操、剣道、柔道、太極拳、ラージボール卓球、ダンス、チアダンス、バスケットボール、バドミントン、フィットネストレーニング、フットサル、ボクシング、ヨガ、ユニカールです。

事務局は、5名で運営しクラブハウス内に事務室を備えています。



## 2 部活動の地域移行で矢板市と連携

### ●学校部活動との連携のきっかけや経緯

平成3年度地域運動部活動推進事業(休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究)を矢板市が希望する際に、その運営団体として連携をさせていただきました。

### ●学校以外に連携した団体や関係者

矢板市スポーツ協会、各種目競技団体。

矢板市部活動検討会議のメンバーに、矢板市スポーツ協会や各種目競技団体の関係者がいらっしゃることで連携がはかどりました。また、当クラブ立ち上げの頃からのつながりもあり、指導者の紹介などで連携をしております。

## ●具体的な取り組み内容

### ① 市教育委員会との委託契約

### ② 関係団体との人材確保における連絡調整＝各種競技団体との連絡調整

### ③ 事業説明会の実施(学校で開催)

対象者・時期:4月初め＝学校(教員)への説明会、4月中旬＝学校(保護者)への説明会

説明内容:対象となる運動部活動顧問の時間外勤務総時間数が削減できるようにする。

教員の負担感の軽減を図る。

専門的な技術指導により生徒の意欲や技術の向上を図る。

中学生のスポーツ活動を地域が担える指導体制の構築を図る。

指導を希望する教員が兼職兼業を申請して指導にあたる仕組みを構築する。

平日も指導に携わっている運動部活動補助員や部活動指導員が週休日も積

極的に参加し、顧問教員と連携しながら一貫指導を行う。

地域部活動へ移行する運動部活動数:6部/12部

地域部活動の実施期間:9ヶ月

地域部活動指導者を派遣する頻度:月4回(平均) 費用負担なし。

説明会参加者の反応ですが、平日も指導に携わっている運動部活動補助員や部活動指導員が週休日にも指導を行い、指導を希望する教員が兼職兼業で指導を行うことで、指導者が変わらないという安心感があつたようです。また、費用負担のないモデル事業という点もスムーズに受け入れていただけた要因だと思います。

### ④ 指導者研修会の実施

主催は矢板市教育委員会で、当クラブと連携して行いました。

名称:矢板市地域部活動指導者研修会

内容:講話「部活動指導員に求められる資質について」

講師:栃木県教育委員会 塩谷南那須教育事務所学校支援担当者

質疑応答・情報交換

参加者数:13名(地域部活動指導者、運営団体、中学校、生涯スポーツ・生涯学習担当課、  
学校部活動担当課の各関係者)

実施頻度:年1回

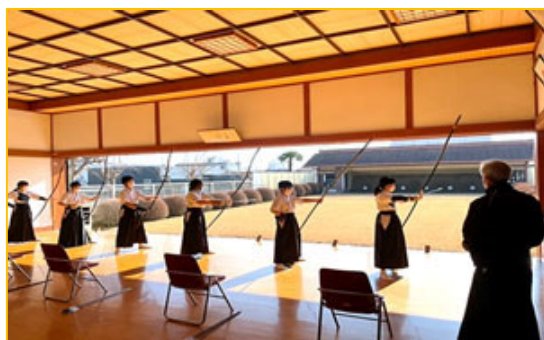
### ⑤ 当該中学校との連絡調整

### ⑥ 当該中学校への指導者の派遣

- ⑦ 当該中学校部員への活動提供(柔道部、剣道部、弓道部、男子バスケットボール部、女子バスケットボール部、サッカー部)

※サッカー部は、教員の兼職兼業の希望があり、教員に指導を依頼しました。サッカー以外の5部活の指導者については、平日の外部指導者に休日も指導を依頼しています。

上記の⑤から⑦に関して感じたことですが、当該中学校ならびに当クラブ双方において、モデル事業実施上での連携に終始し、課題を主体的に検討するまでは至りませんでした。課題としては、学校による検討委員会の設置、指導者の確保、運営団体の組織強化等が挙げられます。



#### ●取り組みを進めてきた中で得たこと

- ① 対象となる運動部活動顧問の時間外勤務総時間数の削減
- ② 教員の負担感軽減
- ③ 専門的な技術指導による生徒の意欲・技術の向上
- ④ 中学生のスポーツ活動を地域が担える指導体制の構築
- ⑤ 兼職兼業の仕組みを構築
- ⑥ 平日・休日の一貫指導体制の構築

#### ●取り組みを進めてきた中で得た改善点

地域運動部活動の専任担当者を置く余裕がなかったため、他の業務との兼務で運営を行いました。各種調整作業が少なく、指導現場の確認も満足ではありませんでした。

また、今回は各部活動1名の派遣となりましたが、指導者の意見を踏まえ、部員数の多い種目へは複数名の派遣が望ましいと思いました。

#### ●種目増で検討を要する施設管理面

現地域運動部活動推進事業では、実施種目の使用施設である体育館、武道場、弓道場、部室が、いずれも学校関係者が管理している教育棟とは別のため、地域指導者に鍵の管理をしてもらっていますが、今後種目が増え教育棟を使用する場合の施設の管理をどうするか、検討を要します。

### 3

## アンケートで浮き彫りとなった検討課題

### ●保護者と地域指導者で認識に隔たり—アンケート結果

矢板市が実施した「部活動を将来、学校が継続して担うべきか」というアンケートでは、地域指導者、保護者、教職員のどの立場においても、「将来的には地域で担うべき」と回答しています。その上で、保護者の多くがこれまでどおり「学校教育の一環としての活動」を望んでいます。一方、地域指導者は「学校教育の一環」とはだれも回答せず、「平日は学校、休日は地域」という形式を回答しています。

### ●立場の違いを尊重しつつ活動の目標・方針を定めることが重要

生徒は、「友達と楽しく活動ができている」ことを1番に挙げ、2番目は「大会・コンクールでの好成績」となっています。地域指導者は「大会・コンクールでの好成績」を1番に挙げ、「練習内容の精選・工夫」を次に挙げています。保護者と教職員はともに「チームワーク・協調性・共感」を1番に挙げており、「大会・コンクールでの好成績」を必ずしも重視してはいません。

以上のことから見えてくるのは、単純に「結果だけを重視している」とか「結果は求めている」ということではないということです。立場の違う人が関わる中で、互いの思いを尊重しながら各部活動の活動目標や方針を定め、納得して活動に取り組むことの重要性を示していると考えます。まずは、学校において検討委員会等を設置する必要があると思います。

アンケートの詳細は、[こちら](#)からご確認ください。

### 4

## 地域移行推進に伴い、クラブ内に専属担当者を

今後、地域運動部活動が推進されていくことに伴い、クラブ内に専属の担当者を置き、市内各中学校の運営団体となれるよう準備をしていきます。

### サッカー以外の種目では「楽しくスポーツ活動」を

クラブ内の事業には、地域運動部活動の対象とはならない種目・チームもあります。サッカー部門では、競技力向上を目標にしているチームがありますので、各種大会での上位入賞や上位大会への参入を目指します。その他のスポーツ種目においては、その種目の目標に向かって、会員を増やし、楽しくかつ長くスポーツ活動ができるよう準備します。

(NPO法人たかはら那須スポーツクラブ 理事長 大森 崇由)

## クラブプロフィール

**設立年月日** 平成19年3月11日(平成19年11月27日法人登記)

**所在地** 栃木県矢板市末広町49-2

**運営** 会員数580名(令和4年3月現在)、予算規模4,241万円(令和4年度)

**特徴**

- ・サッカー中心の総合型地域スポーツクラブ
- ・自己所有施設を保有
- ・人工芝サッカーフルピッチコート2面
- ・鉄骨造り2階建てクラブハウス
- ・人工芝フットサルコート2面
- ・木造2階建てクラブハウス
- ・地域運動部活動推進事業を受託

**連絡先** 〒329-2162 栃木県矢板市末広町49-2

TEL 0287-43-3189 FAX 0287-47-6135

URL <https://vertfee.com/>

E-Mail [info@t-nasu.com](mailto:info@t-nasu.com)





## 助成金情報

### ノエビアグリーン財団 2022年度助成事業

**[実施団体]** (公財)ノエビアグリーン財団

日本を代表するジュニアスポーツ選手の育成、また、心身ともに健全な青少年の育成に寄与することを目的として、一般公募による助成活動を実施しています。

**[申込期間]** 2022年12月1日(木)9:00～2023年2月28日(火)正午12:00

団体と個人で応募できます。電子申請サポートシステムにより応募を受け付けます。

<https://www.noevirgreen.or.jp/grants/index.htm>







# お知らせ

## 日本スポーツ協会情報

### 「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2023」開催のお知らせ

生涯スポーツ・体力づくり全国会議はスポーツに関連する多様な人々が一堂に会し、研究協議や意見交換を行う機会として毎年開催しています。

今年は来場とオンデマンド配信での開催です。ぜひご参加ください。

#### 詳細および参加方法はこちら

<https://www.plazaverde.jp/lifelongsport2023/>

#### ●期日・方法:

来場: 令和5年2月10日(金)

オンデマンド: 準備整い次第、2~4週間程度

※オンライン(オンデマンド配信)では、全分科会の視聴が可能です。また、期間中は繰り返し視聴が可能です。

#### ●会場: プラサヴェルデ(ふじのくに千本松フォーラム)[静岡県沼津市]

#### ●参加料:

来場: 2,000円(税込)

オンデマンド: 2,000円(税込)

※来場参加の場合はオンデマンド視聴代含む

#### ●参加申込: 令和5年1月31日(火)まで ※募集期間を延長いたしました!

#### ●内容

全体テーマ:「Sport in Life」の実現を目指して、第3期スポーツ基本計画の推進

#### 1. 全体会(トークセッション)

「第3期スポーツ基本計画で求められること~3つの新たな視点~」

#### 2. 分科会(パネルディスカッション)

##### ●第1分科会 主担当:(公財)日本スポーツ協会

「女性スポーツにおける情報リテラシーの向上にむけて」

##### ●第2分科会 主担当:(公財)日本レクリエーション協会

「第3期スポーツ基本計画と各主体の連携・協力の可能性  
~スポーツの価値を高めるさまざまな取り組み~」

##### ●第3分科会 主担当:(公社)全国スポーツ推進委員連合

「「Sport in Life」を支えるスポーツを通じた地方創生・まちづくりを目指して  
~スポーツ推進委員に期待される多様な連絡調整~」

##### ●第4分科会 主担当:(公財)日本パラスポーツ協会

「誰もが楽しく運動・スポーツに参加できる環境の創出  
~障がいのある人とない人が一緒に楽しめる運動・スポーツのプログラムづくり~」



<備考>

本研修会の参加により、JSPO公認スポーツ指導者資格の更新研修を修了したことになります。  
ただし、現地で参加された方のみ対象となり、オンデマンド配信の視聴は更新研修並びに単位認定の対象外となります。

なお、テニス資格は2ポイント、バウンドテニス資格・スポーツ栄養士資格は1ポイント(単位)、チアリーディング(コーチ3のみ)資格は都道府県体育・スポーツ協会実施の1回分の実績となりますが、別途、資格毎に定められたポイント獲得や研修受講などの要件を満たす必要があります。

また、次の資格については、更新研修を修了したことにはなりません。

[水泳、サッカー、バスケットボール、バドミントン、剣道、空手道、エアロビック(コーチ4のみ)、スクーバダイビング、プロゴルフ、プロテニス、プロスキー、オリエンテーリング、スポーツドクター、スポーツデンティスト、アスレティックトレーナー](令和4年10月1日現在)

詳細は日本スポーツ協会のホームページを御確認ください。

<https://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid233.html>

<問い合わせ先>

日本スポーツ協会スポーツプロモーション部国内課(実行委員会事務局)

03-6910-5811

[shougai@japan-sports.or.jp](mailto:shougai@japan-sports.or.jp)